

非鉄スクラップ展望

4月の銅・アルミスクラップ市況見通し

橋本アルミ株式会社 橋本健一郎取締役(大阪非鉄金属商工協同組合理事長)

米中貿易戦争と英国のEU離脱問題が左右

4月も米中貿易戦争の行方と英国のEU離脱問題がポイントになる。米中貿易問題に関しては、3月の米購買担当者景気指数(PMI)が1年9カ月ぶりの低水準となり景気後退の兆候が見られること、3月末には米中の閣僚級会議が再開されたこと、直近では国際通貨基金(IMF)が今年度の世界経済成長率を3.3%に下方修正したことを踏まえ、米中が歩み寄る可能性は高まったと言える。

一方、英国の離脱問題に関しては、欧州連合(EU)が離脱期限を10月31日まで再延期すること決め、英国に対し6カ月間の猶予を与えた。当面は英国議会での与野党協議の進展が焦点となるが、一旦は先延ばしされた格好だ。以上2点の動向に引き続き留意したい。



橋本健一郎取締役

ト)で同6.3%増だった。

スクラップ流通在庫は、大型10連休前のリスク売りや銅建値が76万円を維持するため利益確定売りが出てくるだろう。需要面に関しては、足元のメーカー生産状況に大きな変化はないが、ウワ物以外は荷余りの状態。購入意欲は高くないが、慢性的な原料不足で品質の良いスクラップには需要がある。山行き品種や黄銅系は需要がなく飽和状態が続く。

以上を踏まえ、4月のLME銅価格は6,400~6,600ドル(セツルメント)のレンジ、銅建値はキ750~780円と予測する。

アルミスクラップの国内概況、景況予想

指標となるLMEアルミ価格は3月中旬から20ドル高の1,888ドルで4月をスタートした。4月11日時点では1,848ドルに軟化している。

アルミ圧延品生産出荷(19年2月度)は板類・押出類の生産合計が前年同月比3.4%減の15万7092ト)で14カ月連続の減少。アルミ二次合金・同合金地金等生産実績(同)は同3.6%減の6万5697ト)。どちらも減少傾向が続くのかどうかに注目。出荷も同3.1%減の6万6305ト)だった。輸出(同)は、地金シフトの流れからスクラップの需要が低迷。アルミ缶を除いたスクラップ輸出は同8.2%減の8,809ト)だった。輸入(同)も国内製造業の生産停滞で減少。スクラップ輸入は同5.6%減の735ト)、合金スクラップが同25.9%減の3,071ト)だった。

スクラップ流通在庫は、大型10連休前のリスク回避や利益確定売りが出てくるはずだ。需要面は安価な輸入塊の影響を引きずり、合金各社の購入意欲は薄いままだろう。これらを踏まえ4月のLMEアルミ価格は1,800~2,000ドル(セツルメント)のレンジ、スクラップ購買価格は据え置きから-5円程度と予測する。

銅スクラップの国内概況、景況予想

4月の銅建値はト)あたり76万円、LME銅価格は3月中旬から88ドル高の6,498ドルでスタートした。銅建値はその後77万円に続伸したが、4月11日に再び76万円に反落。ほぼ同値圏で推移している。

国内の四輪自動車生産台数(19年1月度)は79万114台で前年同月比7%増。国内自動車販売台数(19年3月度、軽除く)は41万7373台で同4.7%減。新設住宅着工戸数(19年2月度)は7万1966戸で同4.2%増。3カ月連続で増加した。伸銅品生産(同)は同3.1%減の6万5639ト)で3カ月連続の減少。今後も減少が続くかに注目。銅電線出荷(同、速報)は同1.8%増の5万6000ト)だった。輸出(同)に関しては、電気銅が4万4263ト)で同12.2%増、スクラップが1万5900ト)で同17.9%増だった。輸入(同)も電気銅が900ト)で同0.3%増、銅系スクラップが1万958

4月予想レンジ		基調
LME銅セツルメント	6,400~6,600ドル	揉み合い
銅建値	750~780円(キ)	堅調
為替	1ドル=110~112円(1カ月間TTM)	揉み合い

4月予想レンジ		基調
LMEアルミ現物後場買い	1,800~2,000ドル	堅調
スクラップ価格	-5円~据え置き(前月最終価格より)	弱い
為替	1ドル=110~112円(1カ月間TTM)	揉み合い